

## 仮定法の基本構造(2)―仮定法未来

### 基本構文

If S were to V~, S 助動詞 ed V 原 ー.  
 If S should V~, { S 助動詞 ed V 原 ー.  
                                   S 助動詞 V 原 ー.  
                                   命令文.

もしも～なら、ーなのに。  
 (条件節) (帰結節)

未来の仮定法は条件節に were to か should をつける！

### were to と should の違い

were to = 話し手は「ありそうもない空想」として話している。  
 should = 話し手は「ないとは思うが、万が一」と思って話している。

**注意！** 仮定法未来は、「絶対にありえないこと」には were to を使い、「万が一ありえるかもしれないこと」には should を使う…と習うが、それは誤り。実際にありえる事でも were to を使うことはたくさんある。

＝仮定法の「あり得る」「あり得ない」は実際にあるかどうかではなく、話し手がどう思っているかで決まる！

### For study

問2 次の空所に入る適切な語句を選び、記号で答えよ。

If it ( ) to rain, we would have to cancel the picnic tomorrow.

(a) had (b) has (c) were (d) is

should は全仮定法の英文中、唯一帰結節に現在形・命令文をとることができる。  
 →現在形・命令文＝「 」じゃない！！

Q なぜ「 」ではない現在形や命令文を should はとれるのか？  
 =

### examples

③ <If the sun were to rise <in the west>>, Jim wouldn't change his mind.  
                   S                  V                                  S                  V                                  O  
 (太陽が西から昇ろうとも、ジムは決心を変えないだろう。)

④ <If luggage <from Fukuoka> should arrive <today>>, { you would be surprised.  
                                   S                                  V                                  S                  V  
   I will let you know.  
   S          V          O          C  
   Let me know.  
   V          O          C

(もし福岡から今日荷物が届いたら、あなたは驚くでしょうね。/ あなたにお知らせします/教えてください。)

## 必ず仮定法を用いる構文—キーコード⑤の実例

以下の構文を見たら、ラッキーだと思うと良い。この構文は、迷うことなく、仮定法だと決められる構文である。

### It is time 構文（必ず仮定法過去）

It is (just /high/about) time S Ved～ 「もう～する時間だ。」

- ・本当はもう～している時間なのに、実際はしていない＝ 仮定(非現実)
- ・timeの前に just/ high/ about などの単語がつくが、微妙に訳が変わるだけで、問題を解くうえでは気にしなくてよい。

### as if [though] 構文

as if[though] S Ved ～ 「まるで～であるかのように。」

as if[though] S had p.p.～ 「まるで～であったかのように。」

- ・まるで～のように→実際は違う ＝ 仮定(非現実)
- ・as if が as though になっても意味は同じ。

#### as if とは何か

as if 節は元々は次のような表現の省略形。

He speaks **as** he would spoke **if** he knew everything.

「もし彼があらゆることを知っているのならばそう話すだろう(仮定法)ように、彼は話す(直説法)。」

he speak が二重になるので省略され “as if”が接するようになった。as は様態の接続詞で「～のように」。

#### as if の応用形

as if 節は後ろに、前置詞句や不定詞句をとることがあることに注意。

as if by magic 「まるで魔法のように」

The dying man opened his mouth **as if to speak**. He nodded his head **as if to say yes**.

「その品詞の男はまるで話をするかのように口を開いた。彼はまるで“イエス”と言うかのように頷いた。」

### 「～ならばなあ」 構文（帰結節を用いない仮定法）

S would rather	S Ved	}	(今)～ならばなあ
S wish (that)	S Ved		
If only	S Ved		
S would rather	S had p.p.	}	(あの時)～だったらなあ
S wish (that)	S had p.p.		
If only	S had p.p		

- ・～だったらなあ →実際は違う ＝仮定(非現実)
- ・would rather の構文は would rather が動詞の代わりをしている特殊構文。
- ・帰結節の部分がなく、具体的に「～するのに」ということは書いてない。

## examples

① It is <about> time [that you went <to bed>].

S V C S V  
(そろそろ寝る時間ですよ。)

② He speaks <as if he knew everything>.

S V S V O  
(彼はまるで全てを知っているかのように話す。)

③ I wish [that you would have a wonderful time].

S V O S V O  
(素敵な時間をすごされることを祈ってます。)

④ If only I were a millionaire!

S V C  
(大金持ちだったらなあ。)

本日の復習～仮定法の理解～

仮定法のサインは過去形！(if はただの仮定法の仲良しさん)

→時制の過去形と見た目が同じなので、見分ける必要がある！

Q どうやって見分けるの？ A.仮定法のキーコードを使う！

仮定法と判断したら、いつの仮定法かを判断する。

距離感-1 だったら、仮定法過去(今の仮定)、距離感-2 だったら過去の仮定の仮定法過去完了(時間的距離-1+現実的距離-1)。条件節の中に should や were to が入っていれば、仮定法未来。

条件節と帰結節のどちらかが仮定法ならもう一方も仮定法(キーコード③)だが、どちらも同じ時の仮定とは限らない。条件節が過去の仮定で、帰結節が今の仮定のこともあるし、その逆もある。

必ず仮定法でしか使わない形がある(キーコード⑤、左を参照)。

課題：次回までにこの構文を2つ丸暗記してください。

If it were not for~ (今)もし～がなければ(仮定法過去)

If it had not been for~ (あの時)もし～がなければ(仮定法過去完了)

## 「もし～がなかったら(あったら)」の表現

この表現がどうしてこういう意味になるかということを説明すると、古英語にまでさかのぼらなければならない。それは無意味なので丸暗記していこう。

<input type="checkbox"/> If it were not for~,	帰結節(～なのに)	}	もし～がなければ
<input type="checkbox"/> If it had not been for~,	帰結節(～なのに)		
<input type="checkbox"/> But for~,	帰結節(～なのに)		
<input type="checkbox"/> Without~,	帰結節(～なのに)		
<input type="checkbox"/> With~,	帰結節(～なのに) …		もし～があれば
～には名詞が入る。上二つ以外は、帰結節の形で仮定法の時間が決まる。			

### 注意！



Without や with があるから、仮定法なのではない。帰結節が仮定法(時制以外の過去形)だから、仮定法なのである。without はいつも「～なしで」、with は「～と一緒に」という意味。仮定法の without や with なんてものは存在しない。

## For study

問1 次の文が仮定法なら○、仮定法でないなら×と答えなさい。

- (1) Without your help, I wouldn't do today's task.
- (2) Without your help, I won't do today's task.

### if 節(条件節)の代用

条件節(「もし～なら」)を作れるのが if だけだと思ったら大違い。if はただの仮定法の仲良しさんなのだから、仮定法が他の友達とだってくっつくことはある。

<input type="checkbox"/> suppose[supposing]~,	帰結節(～だろう)
<input type="checkbox"/> provided[providing]~,	帰結節(～だろう)
<input type="checkbox"/> 不定詞	帰結節(～だろう)
<input type="checkbox"/> 主節 ; otherwise	帰結節(～だろう)
～には名詞が入る。上二つ以外は、帰結節の形で仮定法の時間が決まる。	

### 注意！



繰り返すが、suppose, 不定詞, otherwise があるから仮定法なのではない。動詞の形が仮定法(時制以外の過去形)だから、仮定法なのである。不定詞は仮定法なのか！と思いこんだりしないように注意。仮定法サインはいつも過去形。

## examples

- ① If you were in my place, what would you do?
- ② **Suppose** you were in my place, what would you do?
- ③ **Providing** you were in my place, what would you do?
- ④ **To hear him speak**, you would take him for an expert. ⇨ 不定詞「条件」[α-10]
- ⑤ You came on time; **otherwise** you would have been fired. (fire = クビにする)

## if 節(条件節)の倒置(if の省略)

この文法事項の意味は「if を使わない分 1 文字少なく同じ表現ができる」ということにある。ルールは簡単。これをおさえてしまおう。

### 仮定法の倒置

- ① if 節の S の右隣の語をチェック(1 語限定)。
- ② その語を前に持ってきて、その語で if を潰す。

### if 節(条件節)の倒置

- ① If S were ~ → Were S ~
- ② If S had V<sub>p.p.</sub> ~ → Had S V<sub>p.p.</sub> ~
- ③ If S were to V<sub>原</sub> ~ → Were S to V<sub>原</sub> ~
- ④ If S should V<sub>原</sub> ~ → Should S V<sub>原</sub> ~
- ⑤ If it were not for ~ → Were it not for ~
- ⑥ If it had not been for ~ → Had it not been for ~

## examples

- ① Were he here, I would be happier.
- ② Had he been here, I would have been happier.
- ③ Were the sun to rise in the west, I wouldn't change my mind.
- ④ Should anything happen, he would do his best to solve it.
- ⑤ Were it not for your help, he would fail on his business.
- ⑥ Had it not been for your help, he would have failed on his business.

## For study

### 入試問題研究 出題パターン

- ・ 倒置以外に正しい形のない選択肢の問題
- ・ 並び替えの空所補充(整序英作文)で空所がどうしても 1 文字足りない問題。
- ・ should を文頭に立たせる倒置で、選択肢を全て助動詞にするひっかけ問題。

問 2 次の空所に入る適切な語句を選び、記号で答えよ。

- ( ) his idleness, he would be a nice friend. (idleness = サボり性)  
(a) It were not for (b) If it were not (c) Were it not for (d) It he were not for

問 3 次の空所に当てはまるように選択肢を並び替えて順番で答えなさい。ただし、4 語以上使用しないこと。

- ( ) ( ) ( ) ( ) water, no animal could be live.  
① for ② were ③ it ④ not ⑤ if ⑥ without

問 4 次の空所に入る適切な語句を選び、記号で答えよ。

- ( ) anything happen, let me know.  
(a) Should (b) Could (c) Would (d) Might

## 仮定法現在(大昔の仮定法)

英語では「あり得る話」を直説法、「あり得ない話」を仮定法で表している。なので「もし明日雨が降ったら～」など、あり得る話をする仮定は「直説法」を使う。

ところが、話はもう少し複雑で、直説法でも「現在形・過去形を使った場合は『現実』を、原形を使った場合は『非現実』を表す」ということを知っておいてほしい。つまり“John is angry.”といった場合、ジョンは実際に怒っている。しかし“John will be angry.”だと動詞が原形なので現実には「ジョンは(まだ)怒っていない」。他にも命令文で“Be quiet!”と原形を使っているので現実には「静かではない(から命令している)」ことになるし、不定詞だって to+動詞の原形を使っているので remember to V だと「(これから)V することを思い出す」になるので、to V の行為はまだやっていない。

つまり、英語で原形を使うと、「非現実感」が出るのである。ということは、「あり得る仮定」には原形を使うべきだ。「直説法で、現実ではない」例の代表的なものだろう。

ところが「あり得る仮定」では実際はこう習う。

時や条件を表す副詞節では未来のことも**現在形**で表す！

これはどういうことだろうか。実は、昔は英語では実際に「あり得る仮定」では原形を使っていた。これを「仮定法現在」という。ところがネイティブがいつの頃からか見た目が似ている「原形」と「現在形」を取り違えてしまったのだ。そのせいで、本来は「原形」を使う表現はほとんど「現在形」で表されるようになってしまい、仮定法現在は絶滅危惧種になってしまう。今では仮定法現在が使われるパターンは以下の①②になってしまっている。受験では以下のルールを覚えておこう。

①動詞が「指示(主張)」「提案」「意志」「決定」「要求」「命令」等の意味を持ち、that 節を目的語にとる動詞である場合、that 節内の動詞は原形になる。

S   **V**   [that S (should) V<sub>原</sub> ～]

↓

「指示(主張)」「提案」「意志」「決定」「要求」「命令」の動詞

「指示(主張)」「提案」「意志」「決定」「要求」「命令」が動詞の場合、that 節内はどれも現実のことではない。例えば「～を提案する」といえば、“～”はまだ現実になっていないだろう。だから提案しているのである。そこで that 節内の動詞は原形になる。イギリス英語の場合、should が付け足されることもある。よく「元々 should があったが省略されることがある」と習うことがあるが、それは誤り。

「指示(主張)」「提案」「意志」「決定」「要求」「命令」の覚え方  
＝頭文字をとって「していけよ命令」と覚えよう。

②形式主語の文で、形容詞が「感情」「判断」「緊急」「必要」に関するものであった場合、真 S の that 節の中の動詞が原形になる。

It is   **形容詞**   [that S (should) V<sub>原</sub> ～]

仮 S   C ↓   真 S

「感情」「判断」「緊急」「必要」の形容詞

「時や条件を表す副詞節」内でも「仮定法現在」を使う場合がある(現在ではほぼ無い)。それは元々は仮定法現在が昔は広く使われていた名残と言える。

If need be, you can use my car.   「もし必要ならば、僕の車を使ってもいい。」(『ロイヤル英文法』より)



## examples

- ① [For American to speak English] is difficult.

S            ㉟            ㉞            ㊦            V            C  
(アメリカ人が英語を話すことは難しい。)

- ② We want him [to talk <to everyone>]. (第5文型)

S    V    O   ㉟    C   ㉞  
(私たちは彼に皆と話してほしい。 = 私たちは彼が皆と話すことを求める。)

- ③ I liked [his [him] reading the poem].

S    V    O   ㉟            ㉞            ㊦  
(私は彼がそのポエムを音読するのが好きだった。)

- ④ <It being rainy>, We canceled the plan.

㉟   ㉞    ㊦            S            V            O  
(雨が降っていたので、我々はその計画を諦めた。)

## ②否定 → \_\_\_\_\_ を準動詞の \_\_\_\_\_ に置く！

動詞を準動詞にすると、否定を表すことができなくなる。否定を表す時は don't / doesn't / can't / isn't など助動詞や be 動詞に not をつけて表すが、準動詞は動詞ではないためである。

**対策** 準動詞の直前に not をつける。

不定詞だろうが、動名詞だろうが、分詞構文だろうが同じ。ただその直前に not を置けばいいだけ。それだけなのに、やたら文法問題で出題され、しかもできる生徒が少ないのが講師をやっていて不思議なところである。

## For study

問2 次の①～④の中から、正しいものを選べ。

「風邪をひかないように注意した方がいいよ。」

You had better be careful ( ).

①to catch cold not ②not to catch cold ③to not catch cold ④to catch not cold

## ③時制 → \_\_\_\_\_

動詞を準動詞にすると、時制を表すことができなくなる。

**対策** 必要な場合は、準動詞を完了準動詞にして、時間のズレを表すことで対応(㉞がVよりも前のできごとであることを表す)。

## 完了準動詞(完了不定詞, 完了動名詞, 完了分詞構文)を用いる時

V	㉞	使う準動詞
現在	現在	準動詞
現在	過去	完了準動詞
過去	過去	準動詞
過去	大過去	完了準動詞

12 時制を準動詞で細かく表すことは不可能なので、それを諦めて、最低限必要な、「V と ㉞ のどちらが先か」ということを表すことだけに集中した。その結果、㉞ が V より先の場合は完了準動詞の形で書くことにしたというだけのルールである。間の時制の完了形とは何の関係もない。

### 完了準動詞 (予習)

完了不定詞 … to have p.p.

完了動名詞 … having p.p.

完了分詞構文… having p.p. / having been p.p

## For study

問3 left (原形: leave) を動名詞にして書き換えなさい。

He regrets that he left school before graduation.

= He regrets ( ) school before graduation.



問4 語群から適切な語句を選び、下線部を埋めなさい。語句は何回使用してもよい。

The old man **is said to be** a rich man.

→その老人は\_\_\_\_金持ちであるということを\_\_\_\_言われている。

The old man **is said to have been** a rich man.

→その老人は\_\_\_\_金持ちであったということを\_\_\_\_言われている。

The old man **was said to be** a rich man.

→その老人は\_\_\_\_金持ちであったということを\_\_\_\_言われていた。

The old man **was said to have been** a rich man.

→その老人は\_\_\_\_金持ちであったということを\_\_\_\_言われていた。

【語群： 今 ・ 昔 ・ 大昔 】

※時間関係が明白な場合は時制がズレていても使わない場合もある。

#### ④受動態(be p.p.)/進行形(be ~ing)

受動態や進行形を準動詞にする場合は、決まった形にすることで表す。

コツ 受動態や進行形の be 動詞の部分動詞として to do 形や~ing 形にする。

準動詞の受動態 (予習)

不定詞の受動態 … to be p.p.

動名詞の受動態 … being p.p.

過去分詞 … p.p.

準動詞の進行形 (予習)

不定詞の進行形 … to be ~ing.

#### examples

① I like [to be given a letter].

S V O V ④

(私は手紙をもらうことが好きです。)

② He happened <to be reading the same book>. (第5文型)

S V V ④

(彼はたまたま同じ本を読んでいた。)

③ I can't stand [being called a coward].

S V O V ④

(私は臆病者と呼ばれることに我慢がならない。)

④ <Written in easy English>, the book is easy <for children to read>.

V S V C ⑤ V

(簡単な英語で書かれているので、その本は子供が読むにも読みやすい。)

#### For study

準動詞とはなにか (授業の復習の過程で必ず読んでおくこと。)

英語では文をそのまま2つ繋げるというのは、文法的には不可能である。述語である動詞が2つになることになり、何を言いたいのかわからなくなるからだ(「彼女は走る食べる。」と言われても意味不明だろう)。しかしそれでも英文を繋げたい場合はどうしたらいいだろうか。

そう聞けば、諸君は「接続詞をはさむ」と答えるに違いない。それももちろん正解である。接着剤のはたらきをするもの(接続詞・関係詞・疑問詞がこれにあたる)を、文と文の間にはさめば、文をそのままくっつけることができる(「彼女は走る。そして食べる。」というイメージ)。しかし、文と文をくっつけるにはもう一つの方法があることを知っておかねばならない。それは「片方の文を文でなくする」ということである。文をそのままくっつけるから述語である動詞がダブってしまっていて意味不明になるのであって、片方の文を文でなくしてしまえば、このルールに違反することはないという理屈である。では、具体的にどうすれば文を文でなくできるのだろうか。

答えは、「動詞を違う品詞に変えてしまう」ということである。英語に置いて、動詞は述語のはたらきをする。述語＝文なので、動詞を違う品詞に変えてしまえば、もうそれは述語ではなく、ということは文でもなくなることになる。そのはたらきをするのが、今回から学習する準動詞である。準動詞の「準」は「半分そうだが、半分違う」の意味。つまり、準動詞は、半分動詞のままで、半分違う品詞にするという機能なのである。よって、準

動詞を読解するときは、動詞としての性質(後ろに目的語 **O** をとっている、文のカタマリが残っている等)と、別の品詞としての性質(そのカタマリで名詞として働いている等)の両方を見なければならないのである。また、半分は動詞でなくなったことで、いくつかの能力が失われている。それがここでやった 4 つ(細かく見れば 5 つ)の機能である。もちろん失われっぱなしでは支障をきたすので、なんらかの対策がある。それをまず理解してから各準動詞を見ていくと理解が進むだろう。というのが今回の内容。

# Original Handouts

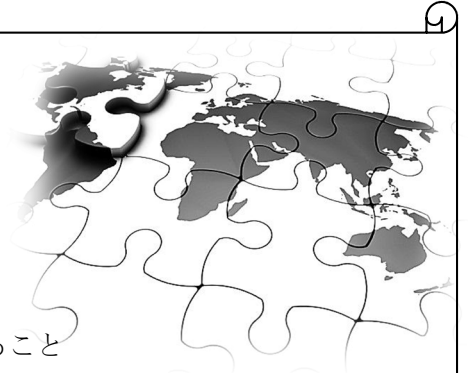
## [7] 不定詞 infinitive

### CHART ～攻略への海図～

- 不定詞の基本の形を覚える。
- 名詞用法と形容詞用法の用例を知る。
- 副詞用法を訳し分けられるようにする。

#### 不定詞ってなに？

準動詞の一つ。文を名詞・形容詞・副詞の3つの品詞のどれかに変えることができる。見た目は同じなので、不定詞の位置(主語の位置にあれば名詞用法…など)から、用法を判断する。



### Compass ～学習の指針～

不定詞の名詞用法(To play tennis is fun.)は普通過ぎて入試では問われない。文法問題では主に名詞用法特有の構文で問われる。形容詞用法も問われる形はほぼ決まっている。面倒なのが、副詞用法。きちんと各意味に訳し分けられるようになること。その他、完了不定詞、独立不定詞、意味上の主語、否定形などが問われるが、一回理解すれば即答できる。

#### 不定詞の基本の形

基本形	to do (to+動詞の原形)
意味上の主語(㊟)	for ㊟ / of ㊟を to do の直前につける。
否定形	not to do
完了不定詞	to have p.p.
受動	to be p.p.
進行	to be ~ing

#### \*不定詞の意味上の主語のルール

基本的に for ㊟の形を用いる。ただし、その直前に「人の評価や性質を表す語」がある場合は、of ㊟の形を用いる。

#### 不定詞の名詞用法

名詞＝\_\_\_\_\_ のはたらきをする。  
→不定詞の名詞用法も、不定詞のカタマリで同じはたらきをすればよい。

#### 形式主語構文(仮主語構文)

不定詞名詞用法は普通の名詞と同じようにはたらくが、一般的に普通の名詞よりも長い。そこで主語の位置に身代わりの it(これを形式主語または仮主語と言う)を置いて、不定詞句を文末に回して読み易くする。これを形式主語構文(仮主語構文)という。it は訳さず、it のところに不定詞句を戻して訳す。

#### 形式目的語構文(仮目的語構文)

上記と全く同じ理屈で、目的語の位置に it を置く場合がある。ただし、第3文型の場合は最初から目的語の不定詞は文末にあるので、これは第5文型で起こる現象であることに注意。動詞は find, make, think, consider の場合がほとんど。

## examples

- ①It is difficult to win the race.  
(×)それは難しいそのレースに勝つことは。  
(○)
- ②I thought it easy to ski in the mountain.  
(山でスキーをするのは簡単だと思った。)

## 疑問詞+不定詞構文 「～すべきか」

不定詞の前に疑問詞を置くことで、「(疑問詞)～すべきか」という訳の、名詞句を作ることができる。疑問詞ではないが、whether がこのグループに入ることに注意。

<input type="checkbox"/> what to do	「何を～すべきか」	<input type="checkbox"/> which to do	「どちらを～すべきか」
<input type="checkbox"/> how to do	「どのように～すべきか」	<input type="checkbox"/> when to do	「いつ～すべきか」
<input type="checkbox"/> where to do	「どこで～すべきか」	<input type="checkbox"/> whether to do	「～すべきか否か」
<input type="checkbox"/> what 名詞 to do	「どんな名を～すべきか」		
<input type="checkbox"/> which 名詞 to do	「どちらの名詞を～すべきか」		

## examples

- ③The question is which to buy.  
(問題はどちらを買うかということだ。)

## 不定詞の形容詞用法

形容詞 { \_\_\_\_\_ 用法… \_\_\_\_\_ に直接くっついて説明をするはたらきをする。  
\_\_\_\_\_ 用法… \_\_\_\_\_ になる。  
→不定詞の形容詞用法で be 動詞の補語になる場合は、be to 構文と呼ぶ構文になる。

## 限定用法

名詞の後ろから(不定詞は少なくとも2語以上のため)説明する。

◆不定詞形容詞用法の限定用法は現時点では理解が難しい点もあるので、今すぐに全てを理解しようとする必要はない。特に関係詞が終わってからの学習が効果的である。

## 不定詞の形容詞用法の名詞と不定詞の関係

- ① ⑤  
名詞 (to V～) … 名詞を～する関係  
⑤が他動詞だったり、不定詞の末に前置詞があったりして、名詞が入れるようになっている。
- ③ ⑤  
名詞 (to V～) … 名詞が～する関係  
⑤や前置詞の後ろに入る場所がなく(別の単語で埋まっている)、かつ③でとると意味がピッタリ通る。

## examples

- ①The government used a large amount (of tax money) <to help the company>.  
s v o ⑤ ⑥
- ②The government used a large amount (of tax money) <in order to help the company>.  
s v o ⑤ ⑥
- ③The government used a large amount (of tax money) <so as to help the company>.  
s v o ⑤ ⑥  
(政府はその会社を救済するためにたくさんの税金を使った。)

## 叙述用法 (be to 構文)

補語になる用法。be to 構文は be 動詞の補語になり、助動詞的に「予定」「運命」「可能」「意図」「義務」「命令」を表す。

### be to 不定詞の意味

「予定」 「～することになっている」

「運命」 「～することになっている」

「可能」 「～できない」

＊否定表現を伴って「不可能」として使う。

「意図」 「(もし)～したいなら」

＊if 節で使う。仮定法 were to の直説法の形。

「義務」 「～しなければならない」

「命令」 「しろ」

be+to= 「～に向かって存在している」というニュアンス。

→全て、「主語」にはどうしようもない「運命」と考えれば読める。訳は適切なものを選んですればよい。

訳のニュアンスが  
辛口になっていくだけ  
(言っている本質は同じ)

be 動詞の後の不定詞の名詞用法と形容詞用法の見分け方

be 動詞の後に不定詞があった場合、主語と不定詞がイコールならば名詞用法、イコールでないなら形容詞用法。そして形容詞用法だった場合は be to 構文。

### For study

問 1 次の文が be to 不定詞なら○、そうでないなら×で答えなさい。

(1) My hobby is to play tennis.

(2) You are to go home quickly.

be to 不定詞だとわかったら...

be to 不定詞だと判明したら、be to の部分を 2 語で助動詞であるように見る。意味は「予定」「運命」「可能(否定形で使う)」「意図(if 節内で使う)」「義務」「命令」のどれかであるが、意味をいちいち判別する必要はない。

You are to go home quickly.

助 V 原

→you が何と言おうと、「急いで家に帰る」ことになっている！

＝あなたは急いで家に帰ることになっている。(予定)

＝あなたは急いで家に帰る運命だ。(運命)

＝急いで家に帰りなさい。(義務)(命令)

### examples

①The most important way to your success **is to study English**.

(あなたが成功するために最も重要なことは英語の勉強をすることだ。)

[S あなたが成功するために最も重要なこと]=[C 英語の勉強をすること]が成り立つのでこれは be to 不定詞ではない。

②You **are to do your homework** before going to play.

(遊びに行く前に宿題しなければいけないよ[することになっているよ]。)

[S あなた]≠[C 宿題をすること]が成り立つのでこれは be to 不定詞。運命や予定で訳して変なら義務や命令で訳せばいい。

今回はどちらも大丈夫では。

③If you **are to succeed**, you must work hard.

(もし成功したいのであれば、一生懸命働かねばならない。)

「意図」は自分の意図を表すので、「主語にはどうしようもない運命」ではないように思えるかもしれないが、If 節の中で使われるので、その意図を持つ限り、結局このように「一生懸命はたらく」などの「主語にはどうしようもない運命」になる。

不定詞の前に「抽象名詞」が来ている場合、後ろの不定詞がその内容を説明することがある。これを「同格用法」という。同格用法は人によって名詞節とも形容詞節ともいわれるが、いちいちどちらかを気にする必要はない。

抽象名詞…具体的な実体のない名詞。(例)能力・機会・約束・拒絶・傾向など

attempt 「試み」 / decision 「決定」 / refusal 「拒絶」 / failure 「失敗」 / wish 「願望」 / promise 「約束」 intention 「意図」 / tendency 「傾向」 / plan 「計画」 / ability 「能力」 / freedom 「自由」 / right 「權利」  
reluctance 「嫌気」 / willingness 「乗り気」 / chance opportunity 「機会」 / way method 「方法」  
effort 「努力」 / reason 「理由」 / time 「時間」

## 不定詞の副詞用法①

副詞 … を修飾する。

～学習の指針～

メジャーな順から、一つずつ押さえておこう。用法によっては、特定の形や、使われるルールが決まっているものもあるので、絶対に抑えよう。

①目的	⑤感情の理由
②結果	⑥判断の根拠
③限定(循環構文, tough 構文)	⑦条件(→仮定法)
④程度	⑧独立不定詞

①～④(も・げ・て・け)がかなり重要。⑤～⑧は読めばすぐにわかるので心配ない。

文頭に来ることができる3つの副詞用法の1つ。実際に文頭で用いることが多い。

---

in order to V     /     so as to V

見た目は不可解だが、気にする必要はない。to V の前にこれらの語句がついていればラッキー。目的と判断しよう。ちなみに、これらの否定形はそれぞれ “in order not to V” “so as not to V” となる。不定詞の前に何かがついていても、not の位置はルール通り、常に to V の直前だ。また、文頭に来ている不定詞副詞用法は、かなりの確率で「目的」用法ということも知っておくとよい。一番使う用法だろう。

①The government used a large amount (of tax money) <to help the company>.

②The government used a large amount (of tax money) **<in order to help the company>**.

③The government used a large amount (of tax money) <so as to help the company>.

(政府はその会社を救済するためにたくさんの税金を使った。)

in order と so as to の意味を考える必要はない。ただの「目的用法のしるし」と考えて、ありがたく利用させてもらおう。

### ① Tips for Reading ; 5 文頭の不定詞の識別

文頭にある不定詞は、**名詞用法**か**副詞用法**のどちらか。

<To V~ > S V …副詞用法(ほとんどが目的)

[To V~ ] V …名詞用法(主語)  
S

形容詞用法は前に名詞がないので絶対にあり得ない。名詞用法だと文の始めに来る名詞になるので主語になる。

→文頭に立つ不定詞副詞用法は、「目的」「条件」「独立不定詞」のどれか！

## 2 結果 (「~して V する」)

この形をとる不定詞は数が少ないので、構文として覚えてしまうとよい。

### 「結果」用法に特有の形

- |   |                                |
|---|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> live to be~      | (生きた結果~になる)「~まで生きる」            |
| <input type="checkbox"/> grow up to be~   | (成長した結果~になる)「成長して~になる」         |
| <input type="checkbox"/> wake up to find~ | (目覚めた結果~を見つける)目覚めて~と知る」        |
| <input type="checkbox"/> ...only to do ~  | (結果~するだけだ)「...したが、~だった」        |
| <input type="checkbox"/> ...never to do ~ | (結果決して~しなかった)「...したが二度と~しなかった」 |

### examples

① The people (in the town) used water <to generate electricity at the time>.

S V O ⑤  
(人々は水を使い、結果、電気を生み出した。) \*目的でとっても良い。

② She lived <to be ninety>.

S V ⑤ ⑥  
(彼女は90歳まで生きた。)

③ He grew <up> <to be a very sociable man>.

S V ⑤ ⑥  
(彼は大人になって非常に人付き合いが良くなった。)

④ I wake up <to find myself happy>.

S V ⑤ ⑥ ⑥  
(私は気づいたら幸せになっていた。)

⑤ He left <never> <to return>.

S V ⑤  
(彼は去り、二度と戻ってこなかった。)

⑥ He worked <hard> <only to fail>.

S V ⑤  
(彼は一生懸命働いたが失敗した。)

## 3 限定[循環構文・tough 構文] (「~するには...だ」)

難易形容詞のすぐ後ろに不定詞がついている場合、「不定詞副詞用法の限定用法」だと考えるとよい。

### 「限定」用法に特有の形

難易形容詞 (難しい・簡単・不可能などを表す形容詞のこと) が前に来る  
easy, difficult, hard, impossible, dangerous

「どんな場合に」難しい・簡単かを表す表現だと思うと簡単。英語は必ず「わかりにくい表現」→「説明」の手順を踏むことに注意。

### examples

① This river is dangerous <to swim in φ>.

S V C ⑤ =this river  
(この川は泳ぐには危険だ。)

② This book is easy <to read  $\phi$ >.

S V C ⑤ =this book  
(この本は読むのに簡単だ。)

③ This problem is difficult <for me to solve  $\phi$ >

S V C ⑤ ⑥ =this problem  
(この問題は私が解決するのは難しい。)

## 循環構文の構造

限定用法の構文は、必ず不定詞内を不完全にして、S が○として入るようにしなければならない。

( $\phi$  は穴が空いているという意味の記号)

This river is dangerous to swim in  $\phi$ .

to swim in (this river) という風に、S が不定詞内の○に入れるように隙間を開けないと×になる。This river is dangerous to swim in this river is dangerous to swim in this river is dangerous to swim in this river is dangerous to swim in this river... と、いくらでもグルグル繰り返せるような構造になるので、これを「循環構文」と呼んだりもするが、そんな名前を覚える必要は別にない。

## 4 程度 (「～するには…だ」) so...as to 構文/too...to 構文/enough...to 構文

比較のメカニズムがそのまま援用できる。

This book is easy. 「この本は簡単だ。」→

This book is so easy. 「この本はそんなにも簡単だ。」→

so	:	そんなにも○○	→どんなにも?
too	:	○○過ぎる	→なにをするのに?
enough	:	十分○○	→なにをするのに?

この、「どれだけ○○なのか」を説明するのが、「程度」用法である。構造的には、「③限定用法(☞[a-10]参照)」と同一である。不定詞内は主語と同じ名詞が入るように空白( $\phi$ )を設けておかねばならない。

### so...as to V 構文

so は副詞で「そんなにも」という意味。その程度を説明する。

so	形容詞・副詞	as to V	「とても～なので～できる」「～できるほど～だ。」
(～)		(ー)	

### too... to V 構文

too は副詞で「～過ぎる」という意味。その程度を説明する。

too	形容詞・副詞	to V	「とても～なので～できない」「～するには～すぎる。」
(～)		(ー)	

### enough... to V 構文

enough は副詞で「十分に」という意味。その程度を説明する。

形容詞・副詞	enough	to V	「～するのに十分～だ」
(～)		(ー)	

## examples

① This book is so easy to read  $\phi$ .

(この本はとても簡単なので、読むことができる。)(この本は読むにはとても簡単だ。)

② This book is too difficult to read  $\phi$ .

(この本は難解過ぎて読めない。)(この本は読むには難解過ぎる。)

③ This book is easy enough to read  $\phi$ .

(この本は読むには十分簡単だ。)

## For study

### enough の位置

enough は副詞と形容詞の両方の品詞を持っている。形容詞は、1語であるが、名詞の前からも後ろからも修



飾が可能。ただし、副詞は必ず後ろから修飾する。今回の構文は、形容詞か副詞の修飾を行うので、**enough** は副詞。よって、かならず形容詞や副詞の後ろに **enough** を置き、さらにその後ろに「程度用法」の不定詞を置く。

## 不定詞副詞用法「程度」をめぐる一連の書き換えについて

まず、so...as to 構文は、so...that 構文に書き換えることが可能。

This book is so easy that I can read it. ⇔ This book is so easy as to read  $\phi$ .

この文で行われていることがわかるだろうか？そもそも、不定詞、さらには準動詞とは何だったかを考えてほしい。そう、「文を崩したもの」だ。つまり、文を崩さずに書くと、so...that 構文になるという、ただそれだけの話である。so...that 構文に直すと、よく、This book is so easy that I can read. と書く者がいるが、今回は崩す前の普通の文であって、空白を空ける必要はないので、最後の it まで忘れないように。また、so ...as to V 構文や so...that 構文の否定形が too...to 構文なのは気づいただろうか。よって、so...that 構文の場合は、このように too...to 構文に書き換えることができる。

This book is too difficult to read. ⇔ This book is so difficult that I can't read it.

この場合も最後の it を忘れないように気を付ける事。

so as to V と so...as to V の違い/so that 節と so...that 節の違い

so as to V ・ so that SV とくっついている場合は、「目的」「結果」だと考える。

I opened all the windows **so as to** let in fresh air.

I opened all the windows **so that I can** let in fresh air.

(私は新鮮な空気を入れるために窓を全部開けた。)

so...as to V ・ so...that SV と離れている場合は「程度」だと考える。

The book is **so** easy **that** I can read it. (so...that 構文)

The book is **so** easy **as to** read.

(その本は私が読めるくらい簡単だった。)

問 1 次の各文の意味が等しくなるように空所に単語を埋めよ(自習問題)。

(1) 彼は親切にもお金を貸してくれた。

He was kind ( ) ( ) lend me the money.

He was ( ) kind ( ) he lent me the money.

He was ( ) kind ( ) ( ) lend me the money.

(2) この問題は難しすぎて私には解けない。

This question is ( ) difficult for me ( ) solve.

This question is ( ) difficult ( ) I can't solve it.

(3) 彼は大学に入るために一生懸命勉強した。

He studied hard in ( ) to enter the university.

He studied hard so ( ) to enter the university.

He studied hard ( ) ( ) enter the university.

He studied hard ( ) ( ) he could enter the university.

φ の謎 (興味のあるものだけ読めばよい。)

不定詞の中ではいくつか、必ず名詞の位置を空けて置かなければいけないものがある。それは「形容詞用法(㊸-㊹関係)」「副詞用法『限定』」「副詞用法『程度』」の3つ。これらは、必ず空所(φ)を作る必要がある。

He has a family to look after φ. 「彼は面倒を見る家族を持っている。」  
This book is easy to read φ. 「この本は読むのには簡単だ。」  
This book is too difficult to read φ. 「この本は難しすぎて読めない。」

以上の例文では下線を引いた単語がφの位置に入るように作文しなければならない。そこで「循環構文になるように書くこと」と指導をするのが一般的な教育である。だが、なぜこれらだけ、そう書かなければいけないのかということには一切触れない(ほとんどの教師は知らないのであろう。しかしあらゆることに疑問を持たねば理解などできない)。

しかし、受験知識としては些かズレてしまうので、知識への探求心を持つ者だけが、読めばいい。実はこの3つの構文には1つの共通点がある。

それは「受動関係」である。不定詞には受動態を表す形(to be p.p.)がある。しかし、実はそれはここ100年くらいで出来た新しい形である。それまでは、能動態も受動態も同じ形だった。しかし、それでは能動も受動も区別がつかない。そこで受動態の場合は、「他動詞や前置詞の後に何も書かない」ということで表した。

A family to look after him. 「家族が彼を面倒見る。」  
A family to look after. 「家族は面倒を見られる。」

下の文は after の後ろには何も書いていないので、元の文は is looked after だったと判断する。だから「家族は面倒を見られる」=「面倒を見られる家族」と読まなければいけないのである。昔は能動も受動も同じ形だったという知識は、動名詞のところでも使う。

## 5 6 感情の理由(...なのは～だからだ)・判断の根拠(...とは～だ)

感情表現の後ろに不定詞がついて、どうしてその感情になったか、ある判断を表す表現の後ろについて、どうしてそう判断したかを説明する用法。普通は見れば、その場で訳せるので簡単。

### examples

- ① He was surprised to hear the news. (感情の原因)  
(その知らせを聞いて、彼は驚いた。)
- ② He was careless to say such a thing. (判断の根拠)  
(そんなことを言うとは、彼は不注意だ。)

## 7 条件 (「～すれば」) → 仮定法で学習済([α - 8]参照)

文頭に来る3つの不定詞の1つ。仮定法で扱った、if 節の代わりになる不定詞のこと。繰り返すが、この不定詞自体が仮定法を作るわけではない。

### examples

- ① To hear him speak, you would take him for an expert.  
(彼が話すのを聞けば、あなたは専門家と間違えるでしょう。)

## 8 独立不定詞

### 独立不定詞とは

文とは独立して、ただ不定詞がボンと単独で置かれる(副詞用法で文全体修飾)ので、「独立不定詞」。訳を覚えて、正しい形が言えれば、文法問題も大丈夫。何も難しくない。

### 独立不定詞

to tell (you) the truth	「実を言うと」
to be frank (with you)	「率直に言うと」
so to speak	「いわば」
to begin [start] with	「まず最初に」
to make matters worse	「さらに悪いことに」
needless to say	「言うまでもなく」
to say nothing of	「言うまでもなく」
not to mention	「言うまでもなく」
to be sure	「確かに」
to say the least (of it)	「控えめに言うと」
not to speak of	「言うまでもなく」
strange to say	「奇妙なことに」
to make a long story short	「要するに」

### examples

- ① **To tell the truth**, I don't like her.  
(実を言うとね…、私彼女のこと好きじゃないのよ。)
- ② **To be frank with you**, your idea isn't attractive.  
(率直に言って、あなたのアイデアには魅力がないねえ。)
- ③ **Strange to say**, the woman with long hair sitting on back seat disappeared without a trace.  
(奇妙なことにね、その後部座席に座っていた髪の長い女の人は跡形もなく消えていたんだ…。)
- ④ **To make a long story short**, they lived happily forever.  
(要するに、彼らは永遠に幸せに暮らしました。)

### 問 1 (p.72)解答

- (1) 彼は親切にもお金を貸してくれた。  
He was kind (enough)(to) lend me the money.  
He was (so) kind (that) he lent me the money.  
He was (so) kind (as)(to) lend me the money.
- (2) この問題は難しすぎて私には解けない。  
This question is (too) difficult for me (to) solve.  
This question is (so) difficult (that) I can't solve it.
- (3) 彼は大学に入るために一生懸命勉強した。  
He studied hard in (order) to enter the university.  
He studied hard so(as) to enter the university.  
He studied hard (enough)(to) enter the university.  
He studied hard (so)(that) he could enter the university.

## 理解のための英文法良問

次の文に含まれる不定詞が、以下の①～⑧のうちのどの用法か選び、訳しなさい。

①目的	②結果	③限定	④程度	⑤感情の理由
⑥判断の根拠	⑦条件	⑧独立不定詞		

1. I rented a place to start a new business.
2. I was too busy to complete the work.
3. To hear Takashi speak English, you will mistake him for American.
4. He is so kind as to help my task.
5. He studies hard so as to help my task.
6. To tell the truth, the teacher is my father.
7. She is nervous to have seen nightmare.
8. To start with, I don't love you.
9. Mr. Kusanagi woke up to find himself in jail
10. The book is easy to read.
11. I have a book to read.
12. My grandfather lived to be ninety-two.
13. She must be smart to find this message.
14. This novel is difficult for me to understand.
15. To study chemistry is necessary.
16. He was surprised to hear the news.
17. To make matters worse, my father entered the room.
18. He stood up to give his seat to the old lady.
19. I raised my hand for the taxi to stop.
20. She wants my original handouts in order to succeed in this exam.
21. Needless to say, the environment is decreasing.
22. My brother worked hard only to fail.
23. My grandmother has a knife to cut with.
24. The book is easy enough for my son to read.
25. Nao got up early so as not to miss the first train.

- 1.①「私は新しい仕事を始める**ために**場所を借りた。」
- 2.④「私は**忙しすぎて**仕事を仕上げる**ことができなかった**。」  
有名な too...to 構文。
- 3.⑦「タカシが英語を喋っているのを**聞けば**、あなたはアメリカ人だと勘違いするでしょう。」  
「条件」は一般的な授業では仮定法で習うものだが、今の文は仮定法ではない。何度も言うが、不定詞が仮定法を作るのではない。if 節と同じはたらきをしているだけだ。
- 4.④「彼は私の仕事を手伝ってくれる**ほど**親切だった。**彼は親切だったので**私の仕事を手伝ってくれた。」  
so as to が離れているので「程度」用法だと判断。
- 5.①「彼は私の仕事を手伝う**ために**一生懸命勉強した。」  
so as to がくっついているので「目的」用法だと判断。
- 6.⑧「**実を言えば**、その先生は私の父なんです。」
- 7.⑤「彼女は悪夢を見た**ので**ナーバスだ。」  
今ナーバスなのだが、夢を見たのは過去なので、完了不定詞になっているところにも注目！
- 8.⑧「**まず初めに**、私はあなたを愛していません。」
- 9.②「クサナギさんは目を**覚ますと**、自分が牢屋の中にいることに気が付いた。」  
wake up to V は結果の構文
- 10.③「この本は読む**のには**簡単だ。」  
どの場合に easy なのかを限定している。循環構文になっていることにも注意。
- 11.解なし「私は読む**ための**本を持っている。」  
注意。これは形容詞用法。これも read book と読ませるために read の後ろを空けておく。
- 12.②「私の祖父は生きて 90 歳になった。」  
live to V は結果の構文
- 13.①「彼女はこのメッセージを見つける**ために**賢くなければいけない。」
- 14.③「この小説は私が理解**するには**難しい。」  
difficult は南緯形容詞。for me は⑤だから「私が」と訳すこと。
- 15.解なし「**科学を勉強することは必要だ**。」  
これは名詞用法で主語になっている。気付いた人はかなり理解できているはずだ。
- 16.⑤「彼はこの知らせを**聞いて**驚いた。」
- 17.⑧「さらに**悪いことに**、父が部屋に入ってきた。」
- 18.①or②「彼は老婆に席を譲る**ために**立った。**彼は立ち上がって、老婆に席を譲った**。」  
目的で訳しても結果で訳しても大丈夫。
- 19.①「私はタクシーが止まる**ように**、手を挙げた。」  
タクシーが⑤になっている。
- 20.①「彼女は試験で成功する**ために**私の original handouts を求めた。」  
in order to V は何も考えずに目的用法。
- 21.⑧「**言うまでもなく**、その環境は減少している。」
- 22.②「私の弟は一生懸命働いたが、**失敗しただけだった**。」
- 23.解なし「私の祖母は切る**ための**ナイフを持っている。」  
注意。これは形容詞用法。to cut にしてしまうと、knife が cut してしまうので、cut with にして、cut with a knife にする。
- 24.④「この本は私の息子が読む**のに**十分簡単だ。」  
enough が easy と不定詞の間に挟まれば、これは enough の程度を説明する「程度」用法。
- 25.①「ナオは始発電車に乗り遅れ**ないように**早く起きた。」  
so as to V の否定形は so as not to V。in order to V の否定形は in order not to V。

# Original Handouts

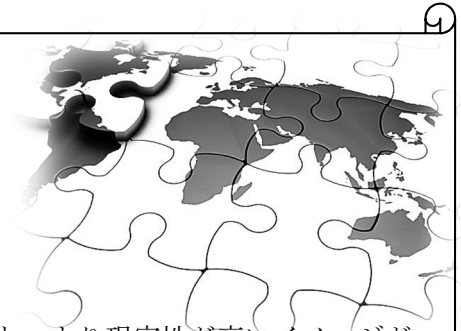
## [8] 動名詞 gerund

### CHART ～攻略への海図～

- 動名詞の基本の形を覚える。
- 不定詞の名詞用法との違いを意識する。
- 暗記事項をひたすら覚える。

#### 動名詞ってなに？

文を崩して名詞のカタマリにしたもの。不定詞の名詞用法と比べると、より現実性が高いイメージがあり、使い方には微妙な違いがある。



### Compass ～学習の指針～

動名詞は暗記が主体の文法分野であることを覚悟しよう。まず最初に、不定詞の名詞用法との相違点をチェックする。その後、慣用表現を覚えて、訳が言えるようになれば終了だ。

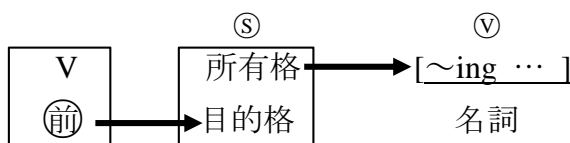
### For study

動名詞の方針＝不定詞名詞用法との \_\_\_\_\_ に着目！

#### 動名詞の基本の形

基本形	～ing
意味上の主語(㉔)	目的格 / 所有格を～ing の直前につける。
否定形	not ～ing
完了動名詞	having p.p.
受動	being p.p.

#### 動名詞の意味上の主語



### examples

① I am sure <of [**his** succeeding]>.  
S V C                      ㉔ ㉕

② I am sure <of [**him** succeeding]>.  
S V C                      ㉔ ㉕  
(私は彼の成功を確信している。)

動名詞の意味上の主語は、㉔を所有格か目的格にして表す。ただし、目的格にできるのは、㉔の前が \_\_\_\_\_ か \_\_\_\_\_ の時だけ(基本的には所有格を使う)。

## 前置詞の後の準動詞

前置詞の後ろに準動詞を持ってきたい場合は、必ず動名詞を使う(不定詞の名詞用法は前置詞の後ろに置くことができない)。不定詞の to がネイティブには前置詞のように感じられて、前置詞に前置詞が重なっているような違和感を覚えるからである。

## 目的語に不定詞をとるか動名詞をとるか

不定詞と動名詞ははたらかきそ同じだが、ネイティブからすると、微妙にイメージが違う。そのため、動詞によっては動名詞を目的語に取らないものや、不定詞をとらないものがある。残念ながらこれに関しては、丸暗記をせざるを得ない。イメージである程度はつかめる者の、慣例的に決まっているものもあるからである。おそらく受験英語で一番手間のかかる暗記であるが、裏を返せば一度覚えてしまえば、多くの受験生を出し抜くこと可能な分野でもある。できるだけ効率の良い覚え方をしよう。

### 覚え方

- ①「目的語に動名詞も不定詞名詞用法も取るが、意味が変わる動詞」を覚える。  
これに関しては、一つたりとも取りこぼしてはいけない。頻出の分野である上に、イメージが非常に効果的に使える。まずは不定詞をとった場合と動名詞をとった場合の訳を完全に言えるようにすることから始めよう。
- ②「目的語に動名詞をとれない動詞」「目的語に不定詞をとれない動詞」の太字を中心に覚える。  
まずは太字のものを覚える。この時、まずは、全体の単語になんとか見覚えがある状態にする。そして、その後、「目的語に不定詞をとれない動詞」を完璧にする。そうすれば、見覚えがあるが、「目的語に不定詞をとれない動詞」にいない気がする動詞は「目的語に動名詞を取れない名詞」だと判断できるからである。

## 目的語に動名詞を取れない動詞(不定詞名詞用法をとる動詞)

(覚え方: MAC DOH SELF PR(マックどう?セルフPR))

M	manage	(なんとか〜する)	F	fear	(〜をためらう)
	mean	(〜するつもりだ)	P	plan	(〜を計画する)
A	agree	(〜に賛同する)		pretend	(〜のふりをする)
C	care	(〜したい)	R	refuse	(〜を拒絶する)
	choose	(〜を決める)			
D	decide	(〜を決める)			
	desire	(〜したい)			
O	offer	(〜を申し出る)			
H	hope	(〜したい)			
S	seek	(〜の努力をする)			
E	expect	(〜を期待する)			
L	learn	(〜するようになる)			

## 目的語に不定詞名詞用法を取れない動詞(動名詞などをとる動詞)

(覚え方: MEGAFEPS CREAM(メガフェプスクリーム))

M	mind	(〜をいやがる)	S	stop	(〜することを止める)
E	enjoy	(〜を楽しむ)		suggest	(〜を提案する)
G	give up	(〜をあきらめる)	C	consider	(〜を熟慮する)
	go on	(〜し続ける)	R	resist	(〜に反抗する)
A	avoid	(〜を避ける)	E	excuse	(〜をゆする)
	advise	(〜に忠告する)	A	admit	(〜を認める)
F	finish	(〜を終わらせる)	M	miss	(〜をしそこなう)
	fancy	(〜を想像する・好む)			
E	escape	(〜を逃れる)			
P	put off	(〜を延期する)			
	postpone	(〜を延期する)			
	practice	(〜を練習する)			

これらはよく動名詞を取る動詞と習うが、ただ後ろに不定詞の名詞用法を取らないだけで、普通の名詞等も取るため、不定詞を取れない動詞というのが正しい。

## 目的語に動名詞も不定詞名詞用法も取るが、意味が変わる動詞

(覚え方：ただ覚える)

try	toV (～しようとする)	stop	toV (～するために立ち止まる)
	Ving (試しに～する)		Ving (～するのを止める)
remember	toV (忘れずに～する)		
	Ving (～したのを覚えている)		
regret	toV (～するのが残念だ)		
	Ving (～したのを後悔する)		
require	toV (～する必要がある)		
	Ving (～される必要がある)		
forget	toV (～するのを忘れる)		
	Ving (～したのを忘れる)		
want	toV (～したい)		
	Ving (～される必要がある)		

《参考》

不定詞＝非現実的・未来的・能動的・明るい イメージ  
動名詞＝現実的・過去の・消極的・暗い イメージ

### 動名詞の慣用表現①—不定詞の to か前置詞の to か

to には大きく分けて 2 種類がある。前置詞の to と、不定詞の to V の頭の部分だ。これが意外に厄介で、準動詞の場合、不定詞なら to の後ろには V の原形が来るが、前置詞の場合、to の後ろは動名詞が来るので、Ving 形にしなければならない。これを我々が識別するのは不可能なので、一見不定詞に見えるが、実は前置詞の to である表現を覚えてしまうことが一番入試問題を解くのに効率が良い(ほとんどは Ving を入れさせる問題)。声に出して忽々に覚えてしまうこと。

### to が前置詞で後ろに動名詞を取る表現

look forward to Ving	「～するのを楽しみに待つ」
be used[accustomed] to Ving	「～するのに慣れている」
get used[accustomed] to Ving	「～することに慣れる」
object to Ving	「～するのに反対する」
when it comes to Ving	「～することになると」
What do you say to Ving ?	「～してはどうですか」
= How[What] about Ving ?	
devote oneself to Ving	「～するのに夢中になる」
with a view to Ving	「～する目的で」

### For study

問 1 次の①～④の中から、正しいものを選び。

Mary is an expert when it comes ( ) the piano. (青山学院・総文・2009)

①to playing ②to play ③of playing ④for playing

問 2 次の①～④の中から、正しいものを選び。

Aya's husband is looking forward ( ) her in London soon. (青山学院・総文・2012)

①to have joined ②to join ③to joining ④to be joining



## 動名詞の慣用表現②

それ以外で覚えておくべき動名詞の慣用表現を挙げておく。これらの慣用表現を覚えてしまえば、動名詞の入試問題はほとんど対応できるはずだ。

for the purpose of Ving	
feel like Ving	「～したい気がする」
have difficulty[trouble] (in) Ving	「～するのに苦労する」
spend O (in) Ving	「O を～して過ごす」
be busy (in) Ving	「～するのに忙しい」
be worth Ving	「(Sを) ～する価値がある」
It is no use[good] Ving	「～しても無駄である」 ← 珍しい動名詞の形式主語構文
= There is no point[use / sense] (in) Ving	
There is no Ving	「～できない」
It goes without saying that + S + V ～	「～は言うまでもない」
never[not] ... without Ving ～	「...すれば必ず～する」
on Ving	「～するとすぐに」
come near[close] (to) Ving	「危うく～するところである」
be on the point of Ving	「まさに～しようとしている」

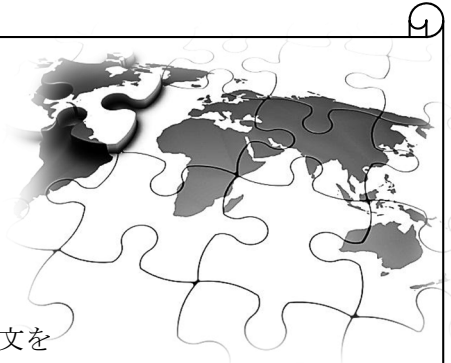
## [9] 分詞 participle

### CHART ～攻略への海図～

- ☐ 分詞が何かを理解して整理する。
- ☐ 感情動詞を覚える。
- ☐ 熟語 2 つを覚える。

#### 分詞ってなに？

現在分詞(Ving)と過去分詞(Vp.p.)を合わせたもの。準動詞の 1 つで、文を形容詞にする。この項目では、分詞が実はすでに我々にとって、なじみ深いものであることを知り、分詞構文へとつなげていく。



### Compass ～学習の指針～

分詞は今までの文法事項や読解のルールを駆使すれば難しいことは何もない。せいぜい感情動詞を覚えるのが面倒なくらいだろう。気楽にやればよい。

復習 形容詞のはたらき

形容詞のはたらき＝\_\_\_\_\_詞を説明する。説明の仕方には 2 種類がある。

① \_\_\_\_\_用法…

② 叙述用法 …\_\_\_\_\_になる用法。第 2 文型と第 5 文型で登場。

#### 分詞の意味

	Ving	Vp.p.
自動詞	進行(している)	完了(した)
他動詞	進行/能動(している)	受動(された)

注意してほしいのは、動名詞は分詞ではないということだ。Ving のカタマリが、名詞のはたらきをしているか、形容詞の働きをしているかに注意すること。対して過去分詞は必ず形容詞なので、気にする必要はない。なお㉖㉗など元の文の形は今回は気にしなくてよい。

## For study

問 1 次の文を訳しなさい。その際に分詞がどんな働きをしているかに注目すること。

- (1) Barking dogs never bites.
- (2) The man standing over there is my brother.
- (3) A stolen book was very funny.
- (3) This is the book written in English.
- (4) She kept crying.
- (5) I was running near the river yesterday.
- (6) The window was broken by her.
- (7) Summer is gone.
- (8) The game was very exciting.
- (9) They were excited in the game.
- (10) Smoking rooms are located in cars 3, 7 and 15. (新幹線の車内放送)

日本語クイズ 「喜ばせる」を使って、「喜ぶ」と同じ意味にする

(図1)のような状況を日本語で表したいとします。空所に「喜ばせる」を入れて、なんとか与えられた日本語文と同じ意味になるように作文をするとき、空所に入る言葉をどう変化させたらいいでしょうか？「喜ばせる」という言葉であれば、活用や形を変えても構いません。

合格のニュースに彼は喜んだ。  
=合格のニュースに彼は  ?  。



(図1)

## 分詞の驚きの真実

以下の文は2通りに解釈できる。分詞が文法の中でひそかに使われていることを理解しよう。

I was running near the river yesterday. (                      )  
S                      V

I was running near the river yesterday.

The window was broken by her. (                      )  
S                      V

The window was broken by her.

be	+	ing	= 進行形
be	+	p.p.(他動詞)	= 受動態
be	+	p.p.(自動詞)	= 完了形
have	+	p.p.	= 完了形

## 感情動詞を分詞にする場合

感情というものは「変化する」ものではなく、「変化させられるものである」(例えば急に「感銘を受ける」、「がっかりしろ」と言われても無理だろう。)。よって感情が「変化する」という表現は無く、「変化させる・変化させられる」という表現になる。例えば excite は「～を興奮させる」という意味なので、「(自分が)興奮した」状況を表現したい場合は、受動態にして「興奮させられた(=興奮した)」とする必要があることに注意しよう。

## 感情動詞(必須)

<input type="checkbox"/> excite 「～を興奮させる」	<input type="checkbox"/> confuse 「～を混乱させる」
<input type="checkbox"/> please 「～を喜ばせる」	<input type="checkbox"/> embarrass 「～を困惑させる」
<input type="checkbox"/> irritate 「～をいらいらさせる」	<input type="checkbox"/> tire 「～を疲れさせる」
<input type="checkbox"/> surprise 「～を驚かせる」	<input type="checkbox"/> exhaust 「～を疲れ果てさせる」
<input type="checkbox"/> astonish 「～を驚かせる」	<input type="checkbox"/> bore 「～を退屈させる」
<input type="checkbox"/> amaze 「～を驚かせる」	<input type="checkbox"/> disappoint 「～をがっかりさせる」
<input type="checkbox"/> injure 「～を傷つける」	<input type="checkbox"/> depress 「～を落ち込ませる」
<input type="checkbox"/> encourage 「～を励ます」	<input type="checkbox"/> fascinate 「～をひきつける」

## 感情動詞(追加)

■ amuse 「～を楽しませる」	■ frighten 「～をおびえさせる」
■ delight 「～を喜ばせる」	■ shock 「～にショックを与える」
■ attract 「～をひきつける」	■ hurt 「～を傷つける」
■ annoy 「～をいらいらさせる」	■ compare 「～を比べる」
■ bother 「～をいらいらさせる」	■ seat 「～を座らせる」

## 感情動詞を分詞にした例

excite 「～を興奮させる」	→ exciting 「(人・動物を)興奮させる」
	→ excited 「(人・動物が)興奮させられた」=(人や動物が)興奮している

## 分詞の慣用表現

覚えるべき表現は以下の2つだけ。

<input type="checkbox"/> make oneself understood	「自分の言いたいことを(相手に)理解させる」
<input type="checkbox"/> make oneself heard	「自分の声が(相手に)聞かれる状態にする」

## 分詞と間違いやすい動名詞

一見分詞に見えるが、そうだとすると意味がおかしい現在分詞がいくつかある。それは動名詞で「～するための」という意味。いくつか挙げておくが、疑問に思った人のためのものなので、暗記する必要まではない。

### 目的を表す動名詞

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> smoking room    | 喫煙室 (煙草を吸うための部屋)<br>→分詞だと「煙草を吸っている部屋」になってしまう。      |
| <input type="checkbox"/> sleeping bag    | 寝袋 (寝るための袋)<br>→分詞だと「寝ている袋」になってしまう。                |
| <input type="checkbox"/> working hour    | 労働時間 (働くための時間)<br>→分詞だと「働いている時間」になり、時間が働いていることになる。 |
| <input type="checkbox"/> swimming pool   | スイミングプール (泳ぐためのプール)<br>→分詞だと「泳いでるプール」になってしまう。      |
| <input type="checkbox"/> driving license | 運転免許証 (運転するための免許証)<br>→分詞だと「運転している免許証」になってしまう。     |

# Original Handouts

## [10] 分詞構文 participial construction

### CHART ～攻略への海図～

- 分詞構文の位置づけを理解する
- 分詞構文の作り方を体で覚えるまで反復練習する。
- 分詞構文を元の形に復元できるように反復練習する。

#### 分詞構文ってなに？

準動詞の一つ。文を副詞の3つの品詞句に変えることができる。今回は＜接続詞+SV＞の副詞節を副詞句に変えるものだ。



### Compass ～学習の指針～

分詞構文は「作ること」と「元の文に戻すこと」ができればすべて対応できると思ってよい。文法問題では分詞構文を作ったり、元の文に戻す過程で生じるあちこちの変化を聞くだけなので、これらの作業ができれば自動的に問題にも答えられる。

#### 分詞構文の基本の形

基本形	～ing
意味上の主語(Ⓔ)	主格を分詞構文の直前につける。
否定形	not ～ing
完了分詞構文	having p.p.
受動	being p.p. (ただし being は通例省略)

分詞構文は＜接続詞+SV＞を崩したものである。接続詞をつけた表現は固いので、砕けた言い方にしたい時に使う。日本語でも「私が朝起きた時、お腹がすいていたので、ご飯3杯食べた。」という言い方は普通しないだろう。「朝起きてー、お腹すいてー」と砕けた言い方をする。つまり、接続詞をつかわずに、ゆるく文を繋ぐものが分詞構文なのである。

## 分詞構文の作り方

<Because he was busy>, Tom didn't go shopping.  
接続詞 S1 V1 C S2 V2

①接続詞を消す。

<Because he was busy>, Tom didn't go shopping.

▶接続詞は問答無用で消してよい。だってそのための分詞構文でしょ。

② S<sub>1</sub> と S<sub>2</sub> を比べて、同じなら消す (→ 普通の分詞構文)。同じじゃない場合はそのまま残す (→ \_\_\_\_\_)。

Because he was busy, Tom didn't go shopping.

▶「同じ」というのは同じ単語でなくても、同じものを指していればよい。例えば Tom と he は単語は別のものだが、明らかに同一人物を指しているので he は消してよい。

③このままだと意味不明の文なので、①②の処理をした証拠に、V を分詞に変える。S が V を「している(能動)」なら Ving、「されている(受動)」なら being p.p. の形にする。

⑤ ③

Because he Being busy, Tom didn't go shopping.

▶進行形や受動態の場合、V は飽くまで be 動詞だけ。

※このとき、being になった場合は省略するのが普通。よって受動の場合は p.p. だけになるし、動詞が be 動詞だった場合は分詞ごと無くなってしまう (今回の例)。以上で分詞構文は完成。

⑤ ③

<Being busy>, Tom didn't go shopping.

③

<Busy>, Tom didn't go shopping.

▶being は省略するのが普通だが、分詞構文だと分かりづらくなる場合はそのまま残すこともできる。

## 独立分詞構文

難しいのは名前だけ。分詞構文の作り方の②の時に、S<sub>1</sub> と S<sub>2</sub> が違った場合に、S<sub>1</sub> をそのまま残した分詞構文のこと。

Because It was rainy, We canceled the plan.  
接続詞 S1 V1 S2 V2

①Because It was rainy, We canceled the plan.

↓

②It was rainy, We canceled the plan.

↓

③It being rainy, We canceled the plan. = これが独立分詞構文

## For study

問1 次の文を分詞構文に直しなさい。

- (1) When he was crossing the street, he was run over by a truck.
- (2) If it rains tomorrow, I will stay at home.
- (3) As he didn't like Mary, he didn't attend her party.
- (4) As the book is written in easy English, the book is good for children.

## 分詞構文の訳し方

**注意！** よく、学校では接続詞を想像して“if”や“when”“because”などを補って訳せと習うが、それは間違い。主節の動詞の補足説明をするように軽く訳せばよい。

分詞構文は必ず「動詞を修飾する」。動詞の様子を補足説明するのが分詞構文なのだ。あとは、それに合うように訳せばいい。

基本的に分詞構文を「～て」「～して」「～しながら」「～ならば」と訳す。それで不自然なようなら適宜意味が合うように接続詞を補って訳す。

### For study

問2 次の文を日本語に直しなさい。

- (1) Seeing the dog, he ran away.
- (2) Living here for many years, I know many places
- (3) Studying hard, you'll pass the exam.
- (4) Watching TV, they are having lunch.
- (5) He studied hard, becoming a doctor.

## 付帯状況の with

with O C 「O が C した状態で(O を C しながら)」

付帯状況の起源は独立分詞構文。独立分詞構文を書いた時に、「～しながら」「～がーの状態で」と読んでほしかったから、その印に with を置いただけ。そのうち、分詞以外の形容詞も用いられるようになった。

While her legs were crossed, she talked with her friend.

接続詞 S1 V1 S2 V2

① her legs were crossed, she talked with her friend.

↓

② her legs being crossed, she talked with her friend.

↓

③ her legs being crossed, she talked with her friend. = 独立分詞構文

④ **With** her legs ~~being~~ crossed, She talked with her friend. = 付帯状況の with

## 完了分詞構文

他の準動詞の同じように、完了分詞構文も存在する。使い方も同じ。⑤と V の時間がずれていて、かつ「⑤が V よりも前のことである」ということを言わなければいけないときは、能動なら having p.p. 受動なら having been p.p. にする。

宿題を終えて、彼は映画を見に行った。

After he had finished his homework, he went to see the movie.

⑤ ⑥

→(×) Finishing his homework, he went to see the movie.

S V

⑤ ⑥

→(○) Having Finished his homework, he went to see the movie.

S V

宿題を「終わらせた」動作と映画に「行く」動作は同時ではない。そこで「終わらせた」動作がより前であることを示すために完了分詞構文にする。



## 分詞構文の慣用表現

分詞構文のルールからはみ出ている例外も含まれているので、これらの表現は各 30 回ほど音読して、暗唱してしまうようにしよう。

generally speaking	「一般的に言うと」
all things considered	「すべてを考慮すると」
compared with ～	「～と比較すると」
considering ～	「～を考えると」
judging from ～	「～から判断すると」
speaking[talking] of ～	「～について言うと」
weather permitting	「天気がよければ」
frankly speaking	「率直に言うと」
strictly speaking	「厳密に言うと」
such being the case	「こういった事情なので」
taking ～ into consideration	「～を考慮に入れると」

## For study

問 1 次の①～④の中から、正しいものを選び。

( ) all things, we had better agree with you. (青山学院・総文・2009)

①Considering ②Considered ③Consider ④Thinking

## 接続詞付分詞構文

分詞構文では、接続詞の意味を明確にするために、分詞構文にした後も接続詞を残しておくことがある(もはやなんのための分詞構文だがわからないが)。これを「接続詞付分詞構文」と言うが、「接続詞+主節の S+be」の省略だと考えることもできる。

When eaten with salad, cold chicken is delicious.

この文の元の文は When cold chicken is eaten with salad, cold chicken is delicious. という文。通常分詞構文にすれば Eaten with salad, ～となるはずだが、when の意味を明確にするためにそのまま残している。これは接続詞の副詞節の中の S+be 動詞の省略と考えてもよい。主節の主語と副詞節内の主語が一致していて、動詞が be 動詞の時、S+be を省略してよい。と考える。

When (~~cold chicken is~~) eaten with salad, cold chicken is delicious.

## 懸垂分詞構文

分詞構文の意味上の主語は主節の主語と一致しているのが条件のはずだが(していない場合は独立分詞構文を用いる)、慣用的に主節の主語と一致していないにもかかわらず、意味上の主語が書かれていない分詞構文が見られることがある。これを懸垂分詞構文といい、慣用的にいくつかの例が見られるものの、英作文などでは書いてはいけない。

Generally speaking, French is more difficult than English.

(一般的に言って、フランス語は英語よりも難しい。)

Judging from his expression, he seems to pass the entrance exam.

(彼の表情から判断するに、彼は試験を合格したようだ。)

### 副詞節の復元

分詞構文の問題を解くには、分詞構文をもとの副詞節に戻すこと（ただし、もとの接続詞がなにかまでは考える必要はない）。

(      ) from a distance, the rock looks like a human face.

①Seeing      ②Seen      ③Having seen      ④To see

①元の文を想像して復元していく。とりあえずなんらかの接続詞があったはず。なんの接続詞か考えるのは無駄なので㊦とでもしておこう。

㊦ ... ( see ) from a distance, the rock looks like a human face.

②S<sub>1</sub>がないということはS<sub>2</sub>と一致しているということだから、the rock を戻す。

㊦ the rock ( see ) from a distance, the rock looks like a human face.

③the rock と選択肢の see の関係を見る。the rock が「見る」？いやいや、the rock は「見られる」もの。だから受動態にする。

㊦ the rock is seen from a distance, the rock looks like a human face.

④is seen を分詞にしたら being seen になるはず。選択肢に合うのはと探すが、being seen の形はない。あ、そうか being は省略するのが普通なんだよね。...ということは、答えは being を省略した②seen。

※この時、㉖（元 V<sub>1</sub>）と V<sub>2</sub>の時間がずれていそうなら完了分詞構文にすればよし。

※文頭の変位副詞用法は目的か条件なので、訳してみて判断する。

※慣用表現はそのまま出るので考えずに即答すること。

ちなみに今回の㊦は when か if くらいが適当かな。気にする必要ないけど。

## 理解のための英文法良問 ㍿㍿

次の英文の従属節を分詞構文に直しなさい。文を崩す途中経過がわかるよう記述しなさい。

(1) Romeo, because he believed that Juliet was dead, decided to commit a suicide.

(2) Because I didn't know which course to take, I decided to ask for advice.

(3) While I was walking along the street, I met a friend.

(4) After my task was completed, I went home in a hurry.

(5) If it is seen from this angle, the rock looks like a lion.

(6) As my mother was in the hospital, I visited her.

(7) As I had no money, I couldn't buy it.

次の英文の分詞構文を元の従属節に復元しなさい。

(8) **All things considered**, he did a very good job.

(9) **Turning to the right**, you will find the bank which you are looking for.

(10) **Written in easy English**, the book is easy for children to read.

(11) She closed the window **with night coming on**.

次の分詞構文の誤りを指摘せよ。ただし(13)は誤りがある方のみ指摘せよ。

(12) **Seeing at this point**, the rock looks like a human face.

(13) We stood there **facing each other, knowing not exactly what to say**.

(14) **Sitting outside the front door**, the moon can be seen.

次の文の空所に入るものとして最も適切なものを選び、記号で答えよ。

1. (        ) close by the lake, I went swimming almost every day during the summer.  
① Lives                      ② Live                      ③ Living                      ④ Lived
2. (        ) from a distance, the rock looks like a human face.  
① Seeing   ② Seen                      ③ Having seen   ④ To see
3. (        ) his homework, he couldn't go swimming.  
① Finishing not                                      ② Not having finished  
③ Not being finished                                      ④ Not finished
4. The weather (        ) fine, we went on an excursion.  
① turned   ② being                                      ③ be                                      ④ was
5. The snow (        ) to fall, we took a bus to the station.  
① beginning                      ② begins                                      ③ has begun                                      ④ was begun
6. (        ) what to say, I kept silent.  
① Knowing not                      ② Not knowing   ③ Known not                      ④ Not known
7. (        ) lost all his money, he could not help giving up his plan.  
① Have                                      ② Having                                      ③ Had                                      ④ To have
8. (        ) in small doses, this medicine will do you a lot of good.  
① Take                                      ② Took                                      ③ Taking                                      ④ Taken
9. (        ) poor, she could not afford to buy a car.  
① Because   ② Being                                      ③ Is                                      ④ Was  
⑤ Which   ⑥ Who
11. Mary was sitting with her (        ).  
① legs crossed                      ② legs cross                                      ③ legs crossing   ④ crossing legs
12. Their project (        ), almost all the members of the team took holidays.  
① completed                                      ② having completed  
③ being completing                                      ④ had completed
13. (        ) under a microscope, a fresh snowflake has a delicate six-pointed shape.  
① Seen                                      ② Seeing                                      ③ To see                                      ④ Having seen
14. There (        ) no bus service, I had to walk home.  
① were                                      ② had                                      ③ being                                      ④ having
15. (        ) in haste, the book has not a few mistakes.  
① Writing   ② Having written                      ③ To have written                      ④ Written
16. (        ) the movie many times before, I did not want to see it again.  
① Seen                                      ② Being seen                      ③ Having been seen                      ④ Having seen

17. She was so exhausted that she fell asleep at nine o'clock (        ) the light on.  
 ① for                      ② in                      ③ by                      ④ with
18. Walking across the road, (        ).  
 ① a bus knocked him down                      ② he was by a bus knocked down  
 ③ a bus knocked down him                      ④ he was knocked down by a bus
19. (        ) three times, he doesn't want to propose to her anymore.  
 ① Be rejected                                      ② Having been rejected  
 ③ Having rejected                                      ④ Rejecting
20. (        ) up, I saw a swan flying right over my head.  
 ① Looking                      ② To look                      ③ Looked                      ④ Being looked
21. Deeply (        ), she decided never to speak to him again.  
 ① shock                      ② to shock                      ③ shocking                      ④ shocked
22. (        ) in plain English, the book is easy to understand.  
 ① To write ② To have written                      ③ Writing                      ④ Written
23. You shouldn't speak (        ) your mouth full at table.  
 ① as                      ② in                      ③ when                      ④ with
24. (        ) Sunday, the bank was closed.  
 ① Being                      ② Being it                      ③ It being                      ④ It was
25. (        ) the dim-lit room, the phone rang.  
 ① Entering ② Having entered                      ③ When I entered                      ④ Entered
26. (        ) knowing which way to go, I had to guess.  
 ① As                      ② Not                      ③ Being                      ④ Unless

# Original Handouts

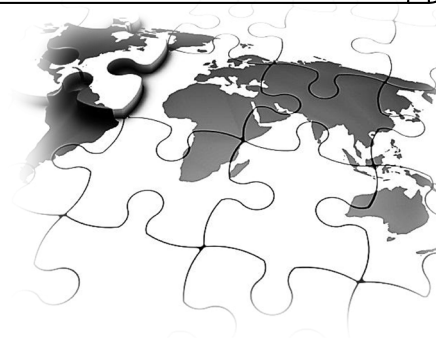
## [11] 関係詞 relative clause

### CHART ～攻略への海図～

- 関係詞が何かを知る。
- 関係代名詞・前置詞＋関係代名詞・関係副詞の違いと共通点を知る。
- 関係詞の what を理解する。
- 関係詞の特殊な用法、複合関係代名詞を理解する。

#### 関係詞ってなに？

形容詞節を唯一作る文法。普通の代名詞や副詞と違い、文をつなぐことができる。この表現を使うことで、普通なら2文かかることがらの説明を、1文で済ませることができる。ほとんどは名詞を修飾する形容詞節。修飾する名詞のことを「先行詞」と呼ぶ。



### Compass ～学習の指針～

まず、中学校レベルの関係詞の知識をきちんと思い出しておこう。さらにその後、正しい知識を授業を通して理解する。構文の基本的な知識があれば必ず理解できるので、逆を言えば、文型のルールや品詞の知識は授業前に必ず完璧にしておこう。

#### 関係代名詞—中学校レベルの復習

##### 関係代名詞

先行詞	主格	所有格	目的格
人	who	whose	whom
モノ	which	whose	which
どちらでも	that	—	that

##### 関係副詞

先行詞	関係副詞	先行詞	関係副詞
場所	where	方法	how
時	when	理由	why

\*関係副詞は that で代用することも可(ただし、先行詞を選ぶ)。

## 基本ルール

### 構文基礎理論編

- ☐ 名詞 … 主語・補語・他動詞の目的語、\_\_\_\_\_になる。文の中で大切な働きをしている。
- ☐ 代名詞… 同じ名詞を繰り返さぬように用いる品詞。
- ☐ 形容詞… 名詞の説明をする。名詞に直接かかる(限定用法)か、Cになる(叙述用法)。
- ☐ 副詞 … \_\_\_\_\_・形容詞・その他の副詞・文全体を修飾する。文に必ず必要なわけではない。文の頭にある場合は文全体修飾。
- ☐ 自動詞… 動詞の内、「自分一人で行う動作」。後ろに目的語はいらない。第1文型・第2文型で使う動詞。
- ☐ 他動詞… 動詞の内、「相手に影響を与える動作」。後ろに目的語が必要。第3文型・第4文型・第5文型で使う動詞。
- ☐ 前置詞+名詞 … 二つペアで形容詞か\_\_\_\_\_のはたらきをする。かかっていく先の品詞が何かで判断する。

### 関係詞の基礎知識編

- ☐ 関係詞(関係代名詞、関係副詞)の修飾する名詞を\_\_\_\_\_詞と呼ぶ。
- ☐ 先行詞の品詞は\_\_\_\_\_詞なので、それを修飾するということは、関係代名詞節は\_\_\_\_\_節、関係副詞節は\_\_\_\_\_節ということになる。
- ☐ 関係代名詞の場合、主格・目的格は **that** で書いてもよい。
- ☐ 関係代名詞の目的格は省略することができる。
- ☐ 関係詞に変わった単語は節の先頭に出る。

## For study

問1 次の英文を、関係代名詞を用いて1文にしてください。

1. She has a friend. The friend lives in Malaysia.

2. That book is mine. That book is on the desk.

3. This is the car. I wanted the car for a long time.



## 関係代名詞の原理

関係=(文を繋ぐ) 代名詞

関係代名詞は飽くまで\_\_\_\_\_であることを意識しよう。

通常、同じ名詞を続けて使う場合、2番目以降の名詞は代名詞に変えられる。

This is **the car**. I wanted **the car** for a long time.

↓

This is **the car**. I wanted **it** for a long time.

しかし、当たり前の話だが、このままではこの2つの文を一つにすることはできない。この2つの文の間には接続詞がないからである。ところが、この **the car** をただの代名詞ではなく、関係代名詞に変えれば、文を繋げることができる。

代名詞の種類	主格	所有格	目的格
代名詞	<b>it</b>	<b>its</b>	<b>it</b>
関係代名詞	<b>which</b>	<b>whose</b>	<b>which</b> ㇼ

関係代名詞にするときの注意は以下の通り。

- ・その節の先頭に移動しなければいけない(接着剤のはたらきをするため)。
- ・できた関係詞節は、元の名詞(今回は the car)の真後ろに着く。元の名詞を先行詞と呼ぶ。

This is **the car**. I wanted **the car** for a long time.

↓

(代名詞ではなく関係代名詞に変える)

This is **the car**. I wanted **which** for a long time.

↙

(節の先頭に出る＝関係詞節ができる)

This is **the car**. **Which** I wanted for a long time.

↓

(元の名詞の真後ろに関係詞節をつける)

This is **the car** (**which** I wanted for a long time).

なぜ関係詞で一文にするのか？

言語と言うのは、一文にたくさん情報が入っていた方が(くどくなるが)内容が濃く、大人っぽい。「これは車だ。僕はこれを長い間探していたんだ。」と言うよりも、「これが僕が長い間探していた車だ。」の方が賢い感じがする。よく漫画で出てくる博士キャラが息もつかずにくどくど喋っているのも、そのイメージから来ていると言えよう。

## 関係代名詞・前置詞+関係代名詞・関係副詞

名詞は、主語・補語・動詞の目的語・前置詞の目的語の位置ではたらく。それを関係代名詞に変えるのが基本だが、問題は前置詞の後ろで、「前置詞の目的語」としている場合である。この場合はこの名詞はどう扱えばいいのだろうか？

I like the place. + I was born in the place.

→in と the place は2つで1つのはたらしきをしている（副詞句で was born を修飾）。

### 関係代名詞

先行詞(名詞)と同じ名詞だけを関係詞に変える形。名詞なので関係代名詞に変わって前に行く。名詞は元々文の中で大事な役割をする(SOC)ので、抜けた後は穴が空く(不完全文)。

I like the place + I was born in the place.

先行詞  
関係代名詞 which ← 名詞

= I like the place (**which** I was born in.)

「ルールはルールですから!名詞だけを関係代名詞にします。」というタイプ。前置詞の目的語のみが前に出て関係詞になる。in は独りぼっちになってしまった。かわいそうに。ちなみに **which** の代わりに **that** を使ってもよい。また、今回は目的格なので、関係詞を省略してもいい(目的格の関係詞は省略可)。

### 前置詞+関係代名詞

「in と the place は仲良しなので、離れ離れにするのはかわいそう。」ということで、名詞の出張に前置詞もついていった形。ただ、それだけです。ただし、今度注意することは、前置詞+名詞(=副詞)の形で抜けたので、抜けた後の文は跡が残らない(副詞はいらない子だからね)。だからこれをよく「完全文」って習うんだけど、抜けたやつが役立たずだったとはいえ、抜けてることには変わらないから気を付けて。

I like the place + I was born <in the place>.

先行詞  
前置詞 in + 関係代名詞 which ← 前置詞 + 名詞

= I like the place (**in which** I was born.)

ただ、よく見たら in は出張先でもひとつになれていない(笑)。前置詞+関係代名詞に **that** は使えないので注意。あと、前置詞の目的格だけど、省略もできない。

### 関係副詞

「in と the place は2つで副詞の働きをしている(副詞の前置詞句)から、もうこれを全体で1つの副詞として考えてもいいんじゃない?」...ということで、そこでその前置詞句が「場所」「時」「理由」「方法」であったなら、1つの副詞と考えて「関係副詞」に変えることができる。つまり前置詞+関係代名詞を1語にしたってこと。今回 in the place は「場所」なので、関係副詞 **where** に変えることができる。

I like the place + I was born <in the place>.

先行詞  
関係副詞 where ← 副詞

= I like the place (**where** I was born.)

これでようやく it と the place は結ばれましたとさ。ちなみに **where** の代わりに **that** を使うことも可能。そして関係副詞の場合は、先行詞が関係副詞、またはその両方を省略してもいい。もしも「場所」「時」「理由」「方法」の副詞句でない場合は前置詞+関係代名詞で我慢しよう。ちなみに前置詞+関係代名詞と関係副詞を比べると、関係副詞の方が柔らかい表現。

以上から、I like the place. + I was born in the place. の答えは以下の全8通りになる。

- |   |                      |
|---|----------------------|
| (1) I like the place which I was born in. | (関係代名詞目的格 which)     |
| (2) I like the place that I was born in.  | (関係代名詞目的格 that)      |
| (3) I like the place I was born in.       | (関係代名詞目的格の省略)        |
| (4) I like the place in which I was born. | (前置詞＋関係代名詞 in which) |
| (5) I like the place where I was born.    | (関係副詞 where)         |
| (6) I like the place that I was born.     | (関係副詞 that)          |
| (7) I like the place I was born.          | (関係副詞、関係詞の省略)        |
| (8) I like where I was born.              | (関係副詞、先行詞の省略)        |

もう一度言うが、これすべて正解だ。「先行詞が場所だから where」などと言っていた自分を愚かしく思い、そして真実を理解した自分を心から喜ぶこと。

※ちなみに(8)は先行詞が the place という特に意味のない名詞だからできるのであって、特定の地域名 (Japan, Fukuoka など) だと省略するとわからなくなってしまうので普通は不可。そして繰り返しになるが、「場所」

「時」「理由」「方法」以外の前置詞句だと関係副詞に変えられないため、つくれるのは(1)～(4)の4つ。関係詞に変わる名詞が前置詞とくっついていない場合は(4)もできないので、(1)～(3)しか作れない。そして、主格の関係代名詞に至っては省略もできないので、(1)か(2)のどちらかしか作れない。ここまで理解してくれれば、関係詞がかなり楽になったことを実感してもらえるはずだ。

### 先行詞を節中に戻す

ここまでの理解を利用して、問題を解く。

理解から得られる解答に有益な情報

- ① 関係代名詞は先行詞と同じ名詞が変わったもの。  
関係代名詞は代名詞である。
- ② 関係詞節内には、先行詞と同じ名詞が必ず入る。  
関係詞に変わって文の先頭に出てきている以上、その文の中に先行詞と同じ名詞が必ずあるはずなのである。

これを利用し、以下の解法を導き出す。

関係詞の問題だと分かった場合、先行詞を関係詞節の中に戻そうとしてみて、スッパリ戻れば「関係代名詞」、うまく戻らないとすれば「前置詞+関係代名詞」か「関係副詞」のはず。

先ほどの例文を問題に改作してみよう。

I like the place ( ) I was born in.

(a)who (b)which (c)in which (d) where

括弧に入る答えが関係詞であることは選択肢から明らかなので、the place が先行詞(この時点で(a)は×)、括弧の後ろは関係詞節ということになる。そこで、元々どの形から関係詞に変わったのかを調べるため、先行詞 the place を節内に戻していく。すると、born in the place(その場所で生まれた)と綺麗に戻るはずだ。よって答えは関係代名詞になり、(b)が正解。ではこちらだとどうだろうか。

I like the place ( ) I was born.

(a)who (b)which (c)in which (d) where

今回も途中までは同じであるが、the place がうまく戻らない。born the place とは言えないからだ。このような場合は、「前に出て関係詞に変わったのは名詞一語じゃないのかな。なるほど born in the place のうち、in も the place と一緒に前に行ったのか。」と発想し、前置詞+名詞で抜けたパターンを考える。答えは(c)前置詞+関係代名詞だが、in which を1語にしかただけの(d)関係副詞ももちろん正解(なので普通は選択肢にかぶらない)。繰り返すが、「先行詞が場所」というだけで即(d)を選ぶのは出題者の思うつぼである。

## 理解のための英文法良問

(着眼点)

- ・先行詞は何か。
- ・関係詞節内はどこからどこまでか。
- ・関係詞節内に先行詞と同じ名詞がどう入るか。

→綺麗に入る = 答えは関係代名詞

→うまく入らない = 答えは前置詞+関係代名詞か関係副詞

※what はまだ習ってないが、先行詞のない関係代名詞なので先行詞がある場合は答えにできない。

1. He remembered the house ( ) his friend had bought twenty years ago.  
① which      ② who      ③ whom      ④ where
2. The girl ( ) sweet voice John loves is a good singer.  
① who      ② what      ③ which      ④ whose
3. These are the tools ( ) he built his own house.  
① that      ② with that      ③ with which      ④ which
4. I can remember the time ( ) phones were still rare.  
① as      ② since      ③ until      ④ when
5. This is the hotel ( ) the Beatles stayed before.  
① where      ② which      ③ of which      ④ that
6. I enjoyed talking to the man ( ) I sat next to on the train.  
① where      ② which      ③ whom      ④ whose
7. Mary is the person ( ) you must speak.  
① by which      ② to where      ③ with who      ④ to whom
8. That was the year ( ) I was born.  
① where      ② into which      ③ in which      ④ at which
9. The novel is about a lawyer ( ) wife betrays him .  
① of which      ② which      ③ whose      ④ what
10. The first woman ( ) entered the room then was my aunt .  
① which      ② who      ③ whom      ④ where
11. The time will soon come ( ) we can enjoy space travel.  
① which      ② who      ③ whom      ④ where
12. Canada is the first country ( ) I visited.  
① at which      ② that      ③ where      ④ of which

- 1 3. He has a slight fever. That is ( ) he will not go to the concert.  
 ① because ② for that reason ③ why ④ when
- 1 4. That's the man ( ) yesterday.  
 ① which I was talking to ② what I was talking to  
 ③ I was talking about ④ with who I was talking
- 1 5. This is the picture book ( ) I spoke the other day.  
 ① to which ② in which ③ of which ④ with which
- 1 6. This is the town ( ) Bob Dylan was born.  
 ① which ② where ③ which ④ for which
- 1 7. The boy ( ) bicycle was stolen reported its loss to the police.  
 ① who ② that ③ when ④ whose
- 1 8. This is the game ( ) I am quite ignorant of.  
 ① which rules ② of whose rules ③ the rules of which ④ what rules
- 1 9. They mentioned two famous tourist spots, ( ) we have visited as yet.  
 ① none of them ② neither of which ③ nowhere ④ where
- 2 0. The house ( ) he was looking for was on the main street.  
 ① where ② what ③ which ④ in which
- 2 1. This is the way ( ) we can become acquainted with one another.  
 ① how ② in which ③ to which ④ which
- 2 2. Let's go to the Spanish restaurant ( ) opened last week.  
 ① who ② where ③ when ④ which
- 2 3. This is a photo of the house ( ) before we moved to Osaka.  
 ① where we lived in ② we lived ③ with which we lived ④ we lived in
- 2 4. I like children. That's ( ) I became a teacher.  
 ① because ② why ③ what ④ when
- 2 5. I still cannot understand the reason ( ) he gave me yesterday.  
 ① what ② why ③ which ④ for which
- 2 6. The society has bought a building ( ) all members can use as a training center.  
 ① which rules ② of whose rules ③ the rules of which ④ what rules
- 2 7. There are several reasons ( ) I have a freezer.  
 ① when ② who ③ why ④ whether
- 2 8. The village is now a very different place from ( ) it was ten years ago.  
 ① that ② what ③ when ④ which

29. Those ( ) were present were very glad to hear the news.

- ① whom      ② what      ③ which      ④ who

30. The book ( ) is not in the library.

- ① the I need it    ② which I need    ③ I need it      ④ I need

## 関係代名詞 what (先行詞を含む関係代名詞)

### For study

問1 つぎの表現の品詞は全体で何詞か。

(1)非常に (2)かわいい (3)女の子 (4)非常にかわいい (5)かわいい女の子 (6)非常にかわいい女の子

#### 関係代名詞 what

先行詞が the thing(s) のような意味のないものだったので、関係詞 which とまとめてしまおうということで what としただけ。先行詞 the thing(s) は which に食べられちゃったのである。関係詞なのに、名詞節をつくるが、それは which の胃の中の the thing(s) の訳が入るから。

I like the things (**which** you bought).

I like [ **what** you bought ].

特徴としては、①先行詞がない(食べちゃったからね)こと、②結果的に名詞節をつくっていること、③節の中が不完全(関係代名詞だからね)なこと。訳は先行詞が the thing(s) だったことも考慮して「～なこと(もの)」とすればよい。

#### 関係代名詞 what と間接疑問文 what

疑問文・感嘆文ではない what は名詞節(節中は不完全)を作る。訳は以下の通りになる。無理に区別しなくていい場合も多く、どちらか好きなように訳せばよい。

関係詞 what 「～なこと/もの」

間接疑問文 what 「何(が)を～するのか(ということ)」

I don't know [what you want to say].

関係詞 「私はあなたがいいたいことを知らない。」

間接疑問文 「私はあなたが何をいいたいのか(ということ)を知らない。」

#### 関係形容詞 whose, what

一般的に whose は所有格の関係代名詞と習うが、所有格は「形容詞」なので正確には「関係形容詞」という。関係形容詞は whose の他に what がある。注意すべき点は、所有格は「形容詞の限定用法(＝なくてもいいもの。pretty girl も pretty はオマケだよな。)」なので、一瞬戻る場所がないように思えることである。

The girl ( ) sweet voice John loves is a good singer.

① who ② that ③ when ④ whose

the girl がカッコの右側に戻るはずだが、一見抜けている部分が無いように見える。コツとしては、選択肢に関係形容詞があった場合は、「(先行詞)の」という風に訳せないか、注意してみよう。すると「彼女の甘い声」という風になることがわかる。whose は人にも物にも使え、また that に関係形容詞の用法はない(書き換え不可)。

関係形容詞の what は「すべての～」という意味がある。関係代名詞 what の文とほぼ同じだが、what の隣に名詞があったら、「全ての名詞」と訳そう。

I gave him [what I had ]

この場合は関係代名詞の what として、「私が持っていたものを彼にあげた。」と訳せばいい。しかし what の隣に名詞が来ると...

I gave him [what little money I had ]

「私が持っていたなけなしのお金全てを彼にあげた。」となるわけだ。what little money はよく出



る形だが、「わずかなお金全て」という意味になる。

関係形容詞の特徴は、元が所有格なので、関係詞に代わって前に出るときに一緒に修飾していた名詞を連れて行くことである。

## 連鎖関係代名詞(関係詞連鎖)

問1 次の空所に入れるのにふさわしいものを選び、記号にこたえよ。

He is the person ( ) I believe is honest, but it is not true.

(a)who (b)whom (c)which (d)whose

この問題をいつもの解き方でやると、the person は believe の後ろにもどりそうだ。

He is the person I believe **the person**...

しかし、よく見ると、その後ろには is と続き、さらに文があって、意味が通じない。これはどうしてだろうか。実は the person は believe の目的語だったのではなく、believe の後に目的語として that 節が来ていて、その節の主語だったのだが、that が省略されているので、見た目がややこしくなっているだけなのだ。これを連鎖関係代名詞(関係詞連鎖)という。

(元の形)

① I believe [**that the person** is honest], but it is not true.

↓  
Who

② **Who** I believe[**that** \_\_\_\_\_ is honest], but it is not true.

③ **Who** I believe[**(that)** \_\_\_\_\_ is honest],but it is not true.

↓  
that は省略可能

④ **Who** I believe [ \_\_\_\_\_ is honest], but it is not true.

⑤ **Who** I believe is honest, but it is not true.

## 連鎖関係代名詞の見分け方

①

②

③連鎖関係代名詞を推測。その場合は解答に主格を答える。

## 関係詞 非制限用法

関係詞は文法的に言えば要するに \_\_\_\_\_ 詞の \_\_\_\_\_ 用法であることは既にわかっていることだろう。ではそれはどんな用法かというと、名詞を説明すると同時に限定をする用法である。

### シルバニアファミリー 赤い屋根の大きなうち

これは、屋根の色を説明すると同時に、屋根の色と家のサイズに関して限定をしている(緑色や青色ではない、小さな家ではないという風に)。これを聞いて、緑色の屋根の小さなうちを想像しないのは、「赤い」という形容詞が限定しているからだ。

この用法はそもそも、家には「赤い屋根」じゃない家や、「小さいうち」が世の中にたくさんあるために使うものだ。世の中の家が全部同じ色で同じ大きさなら、「うち」と言えば全員が同じものを思い浮かべるだろう。サイズや色がバラバラだからこそ、形容詞をつけて限定しているのである。

では逆に、世の中に種類のないものや、どれも同じ性質のものはどうすればいいのだろう。その場合は限定すると変なことになる。

### 今日はクリスマス。街角には赤い服を着たサンタさんがいた。

これなんかは変な感じがする。これだと「赤い服を着たサンタ」と「赤い服を着てないサンタ」がいて、そのうちの「赤い服を着たサンタがいた」と言っているように聞こえる。ところがそれはおかしい。サンタというものは皆赤いものだ。その場合は限定用法を使うと変な感じになってしまう。これは関係詞も同じことだ。次の例を見てほしい。

He has two sons who are doctors.

この文は「彼には医者になった息子と医者になっていない息子が何人かいて、そのうち医者になった息子が2人いる」という意味で「彼は医者になった息子が2人いる」という意味になってしまう。形容詞限定用法の性質で息子の数が限定されているように描写されるからだ。よって、もともと2人しか息子がいない場合はこの用法は使えない。その場合は関係代名詞の非制限用法を使う。

#### 関係詞の非制限用法

先行詞と関係詞の間に , (コンマ) を打つと、関係詞の非制限用法になり、「これは先行詞の単なる補足説明ですよ」というサインになる。

これを使うことで限定をせずに、純粹に説明だけをすることができる。以下を見てみよう。

He has two sons, who are doctors.

この場合、He has two sons で一旦文が切れるイメージになる。「彼は2人の息子がいる。」となるので、彼の息子の数は2人で確定する。その後ろで ,who are doctors ということで、「あ、ちなみに彼らは医者なんだけどね」と後付けで補足情報をしていることになるのだ。読解のときはそう考えて、最初から補足情報として読もう。

#### 関係詞非制限用法の注意点

- ① 関係詞の非制限用法に that は使えない。
- ② 関係代名詞 which の非制限用法は、前文全部を先行詞にできる(文法問題で頻出)。

## For study

問2 必要な場合にに応じて適切な箇所に、(カンマ)を入れよ。

(1) Doraemon which always helps Nobita who is a fool boy is a robot.

(2) It is a housework-helping robot R-01 FR001-MK which helps Nobita who is a fool boy.

